07 農業・林業

北海道枝幸郡中頓別町　山口　隼人

農業・林業

～　最北のブドウで生まれるワインの夢　～

基本情報



【年　齢】
39歳
【出身地】
埼玉県所沢市
【転出元】
愛知県蟹江町
【前　職】
清酒製造
【活動時期】
R5.5～R8.4

協力隊に応募したきっかけ

日本酒の酒蔵で10年ほど働き、ものづくりの現場で地域の水や農産物が味に直結することを体感してきました。一方で、宗谷地方のように「やっている人がほとんどいない寒冷地のブドウ栽培」に挑戦できる機会は多くありません。中頓別町が2017年から試験的にワイン用ブドウの栽培に挑んでいることを知り、これまで培った醸造・発酵の経験をいずれ活かせるのではないかと思い応募しました。家族で自然の中に移り住みたいという思いも重なり、「できると証明するところから関わりたい」と考えたのがきっかけです。

今後の抱負･任期後の目標

町が育てたブドウを町内で醸造し、宗谷らしさを味わいとして届けられる小規模醸造所の立ち上げを目指しています。初期は委託醸造を活用しつつ、将来的にはワインと日本酒風なお酒の両方を仕込める設備を整え、通年で地域の魅力を発信できる拠点にしたいと考えています。また、栽培マニュアルや防霜・獣害対策のノウハウを確立し、後続の担い手がブドウ栽培に入りやすい仕組みづくりに繋げたいと思っています。

活動内容

●ブドウ畑の栽培管理と寒冷地対応の実証

霜害（6月中旬まで続く遅霜）への対応や、シカ・ネズミ・ウサギなどによる食害対策、－30℃以下にもなる冬の凍害対策といった地域特有の課題に、一つずつ現場で対応しながら日々の管理を行っています。町が進める醸造用ブドウ栽培事業の畑作業を、現場で回す役割を担っています。



●委託試験醸造のサポートと醸造研修

ワインの試験醸造を道内ワイナリーに委託する際のサポートをしています。町で収穫したブドウを搬入したあとしばらく現地に滞在してワイン醸造の進め方を学んでいます。試験醸造という町の取り組みに同行する形で、将来の醸造所設立に生かせるよう知識と経験を蓄えています。



●ブドウ栽培やワインの普及啓もう活動

町の広報で定期的にブドウ栽培やワインについての情報を発信しており、中頓別町のブドウ栽培に対する取り組みやワインの豆知識を掲載しています。また、町の施設を活用したワインバーを月2～3回ほど開催しており、町民の皆さまに北海道産ワインのおいしさを伝えています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））sangyo-g@town.nakatombetsu.lg.jp
（電話番号（職場））01634-6-1111
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）
https://www.instagram.com/budou_yama?igsh=Y20wcWJhNjdjeHoz

BUDOU_YAMA

岩手県二戸市　庄司　瑛一

農業・林業

～　漆をつなぐ　うるしびと　～

基本情報



【年　齢】
27歳
【出身地】
青森県三沢市
【転出元】
東京都国分寺市
【前　職】
介護士/教師/彫刻家
【活動時期】
R７.５～R10.３

協力隊に応募したきっかけ

協力隊に応募したきっかけ 私は青森県三沢市出身で、学生時代に日本の漆文化の美しさと奥深さに強く魅了されました。デジタル化が進む現代において、手仕事から生まれる漆の表現と豊かな価値は代替できないものだと確信し、この素晴らしい伝統を未来へつなぐ一助になりたいと強く願うようになりました。地域おこし協力隊の制度なら、現場での技術習得と、社会への発信という二つの価値を両立できると考え、応募を決意しました。

今後の抱負･任期後の目標

漆掻き職人として、一つひとつの技術をより深め、現場でのデータ化や品質管理にも挑戦します。教育の観点からワークショップや学校連携を拡充し、子供たちに漆の魅力を伝えていきたいです。任期後は、自立した職人として地域に根ざし、持続可能な漆林の保全と、伝統技術の継承・普及を担える存在を目指します。自分のスタイルを確立しつつ、地域、そして次世代に貢献し続けることが目標です。

活動内容

●漆掻き技術の習得

一年間の研修で、泉山組合長から漆掻きの基本と奥深さを肌で学びました。
タカッポの扱い方、カンナの選択、傷の付け方、目刺しの深度調整など、実作業を通して多様な技術的知見と職人としての心構えを得ました。



●漆林の保全管理

漆掻きが終わった木は、殺し掻きという方法で漆を採取しているため、その年に伐採しなければなりません。次に漆掻き可能になるまでには約15～20年という長い年月が必要です。そのため、今年作業した現場だけでなく、翌年以降漆掻きを行う予定地の草刈りや枝打ちなどの保全管理も重要な仕事の一つです。



●地域活動

地域活動 地域に根ざした活動として、天台寺にて「漆掻き職人が教える！木彫りの豆地蔵ワークショップ」を講師として開催しました。この活動は、地域資源である漆の木の魅力を体験的に伝え、漆掻きへの理解と関心を深めることを目的としました。



連絡先

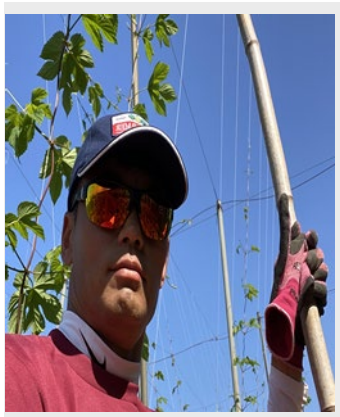
【メディア等の取材連絡先】shojioriginal@gmail.com（個人）
urushi@city.ninohe.iwate.jp（漆の郷づくり推進課）
080-6051-3413（個人）0195-38-4472（漆の郷づくり推進課）
Instagram：joboji_urushibito（二戸市地域おこし協力隊「うるしびと」「漆林フォレスター」公式）
YouTube：https://www.youtube.com/@chokokuyaro（個人）
Instagram：shojioriginal（個人）

岩手県遠野市　髙橋　康児

～　次世代ホップ農家　～

農業・林業

基本情報



【年　齢】
42歳
【出身地】
埼玉県三郷市
【転出元】
埼玉県三郷市
【前　職】
教員
【活動時期】
R6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

１５年間教員として勤務、ある程度の達成感や満足感を感じ、今後今までと同様の熱量で続けていけない、同時に新たなチャレンジをしたいと考えた。以前から地域おこし協力隊には興味を持っており、３年間の活動を経て、その後はこの３年間の活動を活かせる協力隊を探していた。様々な協力隊の募集を見て、唯一この条件に当てはまった仕事が、遠野市の地域おこし協力隊・次世代ホップ農家だった。

今後の抱負･任期後の目標

ホップ栽培とビール作り
まずはホップを栽培するための畑の確保し、そして実際にホップを栽培すること。その後は、自身で育てたホップを使ったビール作りに挑戦したい。ホップとビールで遠野を盛り上げ、その魅力を全国へ、世界へ発信したい。

活動内容

●プロジェクト概要

遠野市の「ビールの里構想」を支えるべく、ホップ農家として「持続可能なホップ栽培」、「良質な遠野産ホップの安定供給」を目指し活動している。



●ホップ栽培の研修と実践

先輩農家の下でホップ栽培のノウハウを学んできた。８月の収穫に向けて、ホップの成長に合わせた丁寧な作業を行った。一つ一つの作業が、次の成長や作業のために意味があることを学んだ。収穫したホップが実際に商品（とれたてホップ一番搾り）として売り出された時はとても感慨深かった。



●海外からのホップ視察案内

台湾、ポーランドからのホップ視察団に同行し、遠野のホップ栽培について英語で案内した。海外の方が遠野のホップに注目していることがわかった。これからも遠野のホップの魅力を伝えていきたい。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））takahashi.koji.d1@gmail.com
（電話番号（個人））090-3502-4444

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram）@cozy_hopfarmer
https://www.instagram.com/cozy_hopfamer?igsh=MWRwdmR6cW5ucG4wdw==

宮城県利府町　加藤　雄一朗

農業・林業

～名産「利府梨」の次世代の担い手に～

基本情報



【年　齢】
40歳
【出身地】
宮城県塩竈市
【転出元】
東京都調布市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

東京都で行われた移住フェアにて、利府町の地域おこし協力隊の説明を聞いたことで、今まで関わったことのない農業に興味が湧きました。また、地元が塩竈市ということもあり、利府町には昔から馴染みがありました。小さな頃から食べていた利府梨はとても大好きな果物なので、自分も梨の生産に携わってみたいと思い、応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

梨農家の継承を行い、利府梨の生産を通じて利府を盛り上げていきたいです。また、利府梨を使用した６次化商品の開発を行い、更に色々な地域の方々に利府梨の美味しさをアピールしたいです。さらには、障がいのある方（支援が必要な方）の就労支援にも繋げられたらと考えています。

活動内容

●梨栽培（摘蕾）

開花前の蕾の時点で摘み取ることにより樹の養分の浪費を防ぎます。この時期だと不要な蕾を指で上から押すことで簡単に折ることができます。



●梨栽培（本摘果）

予備摘果は実を大きく育てるために行いますが、本摘果は玉の大きさを揃えることと、受粉がうまくいかず形が悪い実を整理するために行います。



●梨栽培（収穫）

私たちの梨園では、8月は「幸水」などの早生種から収穫が始まり、その他にも「長十郎」、「あきあかり」などの品種があり、１０月上旬の「あきづき」で収穫を終えます。



梨農家の皆さんから技術指導をいただきながら、梨農家としての独立を目指しています。





連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））nousui@rifu-cho.com
（電話番号（職場））022-767-2191
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram

NASHIMAN_YUICHIRO

福島県猪苗代町　倉重　南菜子

農業・林業

～　新しい農業のかたちを、地域と共につくる　～

基本情報



【年　齢】
30歳
【出身地】
茨城県阿見町
【転出元】
東京都足立区
【前　職】
会社員
【活動時期】
R6.10～R9.9

協力隊に応募したきっかけ

東京で営業職として働くなかで、数字を追う日々にやりがいを感じつつも「もっと人や地域に寄り添う仕事がしたい」という想いが芽生えていきました。
そんな時に出会ったのが、磐梯山をのぞむ猪苗代の風景とまっすぐに農業に向き合う人たちです。
これまでの営業経験で培った“人と人をつなぐ力”を生かし、地域と農業の未来に貢献したいと考え、応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

これまで築いてきたネットワークを活かし、猪苗代町の農業の魅力をより多くの人に届けていきたいと考えています。農家さんと消費者をつなぐ場づくりや、農産物の販路拡大を進め、地域の“おいしい”と“想い”を広げていくことが目標です。
任期後は、町の特産品を首都圏や海外に展開する「地域商社」を立ち上げ、この町の魅力を世界へ届けたいです。

活動内容

●農産物の販路拡大支援

首都圏での物産展の企画や、ECサイトの運営支援、SNSでの魅力発信など、町内産農産物を既存の販路とは違う形で販売する方法を模索しています。農産物を通して猪苗代町のファンを作り、農業者だけでなく、まち全体を盛り上げることを目標としています。



●新規就農者のサポート

過去５年間に就農した方や、現在研修中の方の支援を行っています。実際に圃場を訪ねて信頼関係を築きながら、販路構築や集落との関わりなど、行政の支援が行き届きにくい部分を積極的にサポートしています。すべての就農者が10年後も安心して農業を続けられることを目指しています。

●ブランド米輸出支援

猪苗代町は稲作が盛んで、輸出に向けたブランド構築でも先進的なまちです。お米をめぐる情勢が不安定な中、販路の維持・拡大に向けて計画の見直しや新しい戦略づくりに取り組んでいます。猪苗代町の美しい田園風景を未来に繋ぐため、輸出事業への理解者を増やす活動にも力を入れています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）kurashige_nanako@town.inawashiro.fukushima.jp
（電話番号（職場））0242-62-2116(農林課)
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
猪苗代町地域おこし協力隊インスタグラム
いな食|猪苗代町農林水産物ブランドインスタグラム

©INAWASHIRO_CHIIKIOKOSHI　©INAWASHIRO_INASYOKU

栃木県さくら市　吉家　雅人

～　農業×子育て移住　～

農業・林業

基本情報



【年　齢】
31歳
【出身地】
長野県長野市
【転出元】
埼玉県さいたま市
【前　職】
会社員（食品関係企業）
【活動時期】
R6.4～R9.3

協力隊に応募したきっかけ

就職を機に上京し、東京都内で会社員として働いていました。

妻の出身地である栃木県への移住を検討していた際、移住相談に訪れたさくら市役所で、「地域おこし協力隊」の制度を知りました。

さくら市で募集していたミッションと、農業で地方を盛り上げたい自身のビジョンが合致し、家族３人で移住して農業による地域おこしに取組むことを決意しました。

今後の抱負･任期後の目標

地域の農業者が築き上げ、守ってきた農業や農地を私たちが受け継ぎ、未来を担う子ども達を「農」をとおして支えていきたいです。

そのために、農作業支援や農業ＰＲに取組み、農産物の生産から消費者に届くまでの過程に広く関わっています。

また、任期後の就農や農業法人の設立を目標に、活動をとおして地域の農業者と連携していきたいです。

活動内容

● アグリレスキュー「さくら農援隊」の運営

農業者から地域農業の課題を吸い上げ、隊員３名で事業化しました。農業に関する困りごとへ隊員を派遣するもので、現在は５名の隊員が協力して取組んでいます。

Ｒ６年度にプレ実施し、Ｒ７年度には延べ150件以上の活動に取組みました。実施後のアンケートでは、「隊員と話をする機会ができて良かった」、「自身の農作業の改善になった」、「一緒に作業ができて楽しい」などの声をいただき、事業への期待や地域おこし協力隊の認知度向上にも繋がりました。

さくら市若手農業者の会（４Hクラブ）との連携事業にも取組み、継続して地域農業へ貢献していきます。



● 農業体験や農業PRイベントへの参画

地域の農業者や小学校と連携し、子どもたちの農業体験や職業紹介の時間に参加しました。子ども達が農業に関心を持ち、その未来を考えるきっかけに携われたと感じます。

また、首都圏や市内外での農業イベントなどに出展し、ＰＲを行っています。地域の農業にスポットライトを当てその魅力を広く発信することで、将来的な地域の農業振興にも繋がることを期待しています。



● 米麦農家における農作業支援や農業技術などの習得

複数の協力農家の元で、主に米麦の農作業支援に取組んでいます。大規模農家であることから、関わりのある他の農業者への農作業支援にまで手を伸ばせました。特定農家だけでなく、多くの農業者に貢献できているのではと、手応えを感じています。

また、この活動で習得した知識や経験、人脈は、「さくら農援隊」の活動にも活かしています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス・さくら市総合政策課）　sogoseisaku@city.tochigi-sakura.lg.jp
（電話番号・さくら市総合政策課）　028-681-1113

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（ホームページ）　https://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/living/000099/index.html
（Instagram）　https://www.instagram.com/sakurakyouryoku2/

長野県下條村　菊地　翔

農業・林業

～　南信州下條村農業の担い手　～

基本情報



【年　齢】
37歳
【出身地】
福島県南会津郡只見町
【転出元】
千葉県茂原市
【前　職】
発電所職員
【活動時期】
R7.8～R10.7

協力隊に応募したきっかけ

前職はサラリーマンでしたが、夫婦で果樹農家になりたいとの思いから新規就農への挑戦を決意しました。

長野県は果樹の産地として有名であり、下條村は私の出身地である人口4,000人弱の小さな町と環境が似ている点で親しみを覚え、さらに「奇跡の村」と呼ばれていた点に魅力を感じ応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地域おこし協力隊就任時は果樹農家になりたいという思いだけで具体的に何の品目を作るかはハッキリしていなかったが、ぶどう農家になりたいと目標も決まったので独立に向け活動していきたい。

任期後は自分たちが受け入れ農家となり、南信州のぶどう生産量を上げブランド化を目指したい。

活動内容

●農業研修

10月から市田柿の準備。収穫、皮むき、吊るし作業を一通り体験。これから11月いっぱいまで市田柿が作業のメインになる。
8月の着任から桃の収穫、出荷作業、加工作業。
9月は梨の収穫、出荷作業。研修農家の近くにある梨とりんごの共同選果場にも手伝いに行った。



●梨畑の開墾

作付け品目をぶどうに決めたので、研修用の畑にするため耕作放棄地になっていた梨畑を開墾。
梨用の棚を活用してぶどう用の棚を作る。
来年の春までに梨の木を全部切り、ぶどうの苗木を定植予定。



●地域のスキルアップセミナー

地域で開催されたスキルアップセミナーに参加した。
就農５年以内、または新規就農者向けのセミナーで、若木の状態を見ることができた。
独立後のイメージがより具体的になったので、計画の作成に活かしたい。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）
（電話番号（職場））0260-27-2311

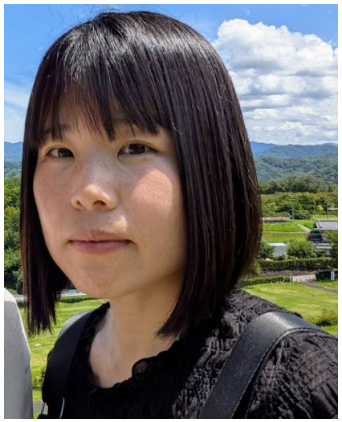
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
特になし

長野県下條村　菊地　良子

農業・林業

～　南信州下條村農業の担い手　～

基本情報



【年　齢】
35歳
【出身地】
千葉県茂原市
【転出元】
千葉県茂原市
【前　職】
経理事務
【活動時期】
R7.8～R10.8

協力隊に応募したきっかけ

非農家の家庭に育ちましたが、大学生の時に農業に興味を持つようになりました。
社会人となってからは、農業関連企業での勤務を通じてさまざまな形で農業に携わってまいりました。

そのうちに夫婦で農家（特に果樹）になりたいと目標を抱くようになり、下條村と出会いとても魅力的な自治体だと思い応募いたしました。

今後の抱負・任期後の目標

今後は夫婦で果樹農家として独立するため、まずは地域の農家さんのもとで研修に励みたいと考えております。

また、少子高齢化や近ごろの物価高にコメ不足、将来的な地震リスク・異常気象の常態化といった課題を考慮しながら、自分がどう地域農業や地域コミュニティの維持・発展に貢献できるか考えていきたいと思います。

活動内容

●柿の加工作業

10月の下旬からは研修先の農家さんにて柿の収穫・加工作業が始まりました。
活動は今年の8月からスタートしましたが、これまでは桃・ナシ・りんごの管理作業や、収穫・加工作業をさせていただきました。



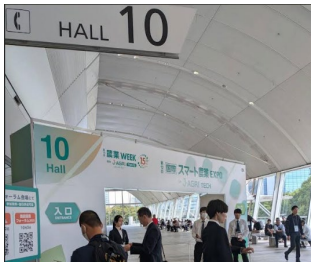
●耕作放棄地の再生

６年ほど放置されていたという梨畑をお借りして、独立後に果樹園を始めるために整備していきます。
刈払機はこれまでも使用したことがありますが、チェーンソーは初めて使用するため安全に気をつけて作業します。



●その他出張や外部研修等

千葉で開催された農業WEEKに参加して次世代の農機を見たり、県内の試験場で行われた栽培検討会に参加させていただいたり、地域や外部のセミナーにて土づくりや肥料について学ぶなど、色々と勉強させていただいています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）
（電話番号（職場））0260-27-2311

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（特になし）

長野県信濃町　野端　伸匡

農業・林業

～　有害鳥獣被害を減らし、信濃町にない新たなグルメを作りたい　～

基本情報



【年　齢】
25歳
【出身地】
三重県鈴鹿市
【転出元】
長野県東御市
【前　職】
機械設計
【活動時期】
R6.6～R9.5

協力隊に応募したきっかけ

転職先として新天地を探していたところ、地域おこし協力隊制度について知りました。もとより長野県の雪がある田舎で定住したいと考えていたこともあり、県内で同条件の場所を探していました。縁もゆかりもないので、受け入れてもらいやすい地域がよく、担当の役場職員の方と話したフィーリングでとても惹かれたのが信濃町でした。

今後の抱負･任期後の目標

協力隊活動中に子宝にも恵まれ、家族が1人増えました。家族のためももちろん、家族同然に接して頂ける町の皆さんにも恩返しとして信濃町の新たな魅力の１つとなるようジビエというグルメの醸成、剥き出しの信濃町の自然の体験の一端を担いたいと考えています。

活動内容

●関係人口創出

現在は有害鳥獣の対応をしていますが最初は関係人口の分野で仕事をしていました。こちらも町の今後に関わる大きな役目でしたし、この仕事のおかげで色んな町民や信濃町ファンの方と知り合える事が出来ました。



●有害鳥獣

信濃町に来て3ヶ月の間に2回クマと遭遇し、信濃町における自然との近さを目の当たりにしました。そんななかでも農業を営む人々と戦う猟友会の双方には、高齢化しながらも大切にしたい文化と営みがありました。沢山の方から頂いた恩をこの道から返したいと思いました。



●ジビエ処理加工場を開きたい

今町内でジビエ処理加工場を開くために場所を探しながら技術を磨いています。どうすれば美味しく獣を捌くことができるのか、駆除されてしまう命をなるべく活かすことができるのかを模索中です。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））nourin@town.shinano.lg.jp
（電話番号（職場））026-255-3113

京都府京丹後市　干場　健介

～　果樹農家の担い手　～

農業・林業

基本情報



【年　齢】
22歳
【出身地】
兵庫県豊岡市
【転出元】
大阪市港区
【前　職】
会社員
【活動時期】
R7.9～R10.8

協力隊に応募したきっかけ

学生時代に、父の知り合いの農家でお手伝いをしたことをきっかけに、農業に興味を持ちました。その後、農業大学校に進学し、ブドウの品種のひとつである、安芸クイーンとの出会いを通して果樹栽培に強い関心を抱くようになりました。果樹栽培が盛んな京丹後市で新規就農を目指すにあたり、実践的な経験の習得と地域の方々との繋がりを得たいと考え、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- 一つひとつの作業を丁寧に行い、地域の方々から学びながら、自分らしい農業スタイルを見つけていきたいです。
- 協力隊としての活動を通して、果樹栽培の技術や経営の知識をしっかり身につけ、任期終了後には京丹後市で独立し、自分の農園を持つことを目指しています。そして、自分の果物を食べた人に「美味しかった」「また買いたい」と感じてもらえるようなものをつくり、地域農業を一員として支えていけるよう頑張って行きたいと思っています。

活動内容

●果樹農家の担い手としてノウハウの取得

受入先の日下部農園の業務を通して、将来の独立に必要な果樹づくりの経験を積んでいます。一年を通した栽培管理、マニュアルでは身につけられない現場対応力を勉強しています。また、長年地域で受け継がれてきた栽培の工夫や知恵を実際の現場で身につけています。



●収穫物の流通

出荷調整出荷作業に加え、直売所での対面販売、電話ファックスECなどの直接販売、地元スーパーや卸売流通事業者、市場出荷など幅広い出荷先に合わせた出荷販売を通して、お客様に求められる商品づくりを学びます。



●地域課題の把握・改善

地域の行事や農家間の交流の場に積極的に参加していきたいと考えています。担い手不足が進む中で、農地の維持が大きな課題となっています。その現状を把握・理解しながら、地域の中での自分の役割を見つけて尽力します。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
京丹後市　農業振興課（大宮庁舎）
〒629-2501京丹後市大宮町口大野226
（電話番号 ）0772-69-0712

京都府京丹後市　保田　蓮人

～　果樹農家の担い手　～

農業・林業

基本情報



【年　齢】
24歳
【出身地】
大阪府摂津市
【転出元】
大阪府摂津市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R５.9～R８.9

協力隊に応募したきっかけ

幼い頃からよく家族で海水浴に来た思い出があり、海も自然もあるこの町に住んでみたいと思っていたから。また、趣味のサーフィンを思う存分楽しみたいから。

今後の抱負･任期後の目標

活動期間中に果樹の栽培技術をしっかりと習得し、果樹農家として独立したい。また、収穫したフルーツの販売はもちろん、フルーツを使った加工品の開発などもしていきたい。大好きなフルーツを通じて、京丹後の町全体を地域の方々と一緒に盛り上げていきたい。

活動内容

●果樹農家の担い手としてノウハウの取得

受入先である京丹後フルーツオーガナイゼーションの雇用の下、任期終了後の独立を目指して、日々果樹栽培に取り組んでいる。



●収穫物の流通

直売所のひとつ「うみのみえる丘」にて、フルーツの販売。また市外での販売、販路の拡大などについても、受入先からの指導を受けている。



●地域内外のネットワーク構築

町全体を盛り上げたいという目標に向かって、同業者はもちろん、大好きなサーフィンを起点にした異業種・異世代の様々な人とのネットワークの構築を積極的に進めている。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
京丹後市　農業振興課（大宮庁舎）
〒629-2501京丹後市大宮町口大野226
（電話番号 ）0772-69-0712

兵庫県丹波篠山市　山中　望

農業・林業

～　未利用の山林をつかった地域おこし　～

基本情報



【年　齢】
36歳
【出身地】
静岡県浜松市
【転出元】
大阪府堺市
【前　職】
内装建材メーカー
【活動時期】
R6.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

学生時代から林業に関心があり、大学では木材物理学を専攻していました。内装建材メーカーで木材加工や商品開発を経験する中で、林業の課題に向き合い、山林をフィールドに働きたい思いが強まりました。篠山イノベーターズスクールで、林業家や地域おこし協力隊員が地域資源を活かして活動している姿に触れ、私も個人レベルから実践を始めたいと決意。大学や内装建材メーカーでの知識・経験を活かし、林業や森林を盛り上げるためのお手伝いができると考え、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

利用価値が見出されず放置されたままになっていたり、境界も所有者もわからず手をつけることができない“誰かの山”を、アクティビティや教育にも使える“みんなの山”として、新しい価値提案を考えます。また、任期後は林業家として自立して、小規模でも持続可能な施業と販路づくりを進め、地域内で回る林業モデルを確立します。
その他でも、アウトドアイベントやアロマワークショップなど、森に関する様々な事業に挑戦します。

活動内容

●丹波篠山・山城ロゲイニング

丹波篠山の里山を舞台に、地図とコンパスでチェックポイントを巡って得点を競うロゲイニングイベントで、観光とスポーツを同時に楽しめます。初心者から上級者まで参加でき、山城の歴史や構造について学ぶこともできます。また、地域のお店も集まり、マルシェも同時に開催されます。



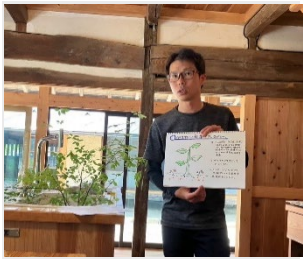
●山林整備

丹波篠山市大芋地区市野々で、先輩林業家に定期的に指導を受けながら、人工林の間伐やショベルカーによる作業道作りを行っています。また、かつて林業や炭焼きなどで使われていた山道を復興し、ハイキングコースにするための整備を行っています。人工林や広葉樹林を整備し、山と人の結びつきを再び強くしていきます。



●森林・林業体験イベント

山林資源を活用した、山採れアロマワークショップや昆虫観察イベント、クロモジ茶の加工、シイタケづくり体験など、様々なイベントを企画・実施しています。山遊びの楽しさを参加者に伝え、山林を購入しなくても自由にアウトドアを楽しむことができるイベントを提供します。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス） n.yamanaka.2024@gmail.com
（電話番号） 090-5035-2866

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（山城ロゲイニングHP）丹波篠山・山城ロゲイニング2025

YAMA_NOZO30

和歌山県伊都郡高野町　足立　義剛

農業・林業

～　富貴の農産物を通じて、人と地域をつなぐ　～

基本情報



【年　齢】
46歳
【出身地】
三重県伊賀市
【転出元】
奈良県王寺町
【前　職】
郵便局, DJ, 散髪屋
【活動時期】
R5.5～

協力隊に応募したきっかけ

娘が小学校5年生の時にコロナの学校消毒がキッカケで化学物質過敏症を発症し学校に行けなくなりました。もともと自然豊かな土地で暮らしたいと思っていたこともあり、このタイミングで田舎移住しようと家族で話し合い、移住先を探す中、友人のご縁で富貴に出会い、ちょうど協力隊前任者の後継者を募集していて、限界集落内で仕事ができる！内容も農産物の販路拡大とあり、働きながら野菜の勉強もできる！これはチャンスだ！と応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

この土地で農家になりたい！米や野菜を作りたい！そんな人達がどんどんやってくる。その為の地域ブランディングをしていきます。第一弾が自然農の村プロジェクト。そして野菜を売る直売所。B品として廃棄される野菜を使った加工品や惣菜屋さん。ドライベジタブル、大豆や小豆などの加工場作り。ジビエの解体施設。野菜を使った飲食店兼、地域のみなさんとの交流スペース。暮らしを体験できる宿泊施設兼、シェアハウス。八百屋を通じて富貴のプロモーション活動、移住相談などなど。地域に生業をつくる。

活動内容

●地域農産物の販売

『地産地消』から始めよう！を合言葉に富貴地区の美味しい野菜を定期的にマルシェ等で対面販売も行い消費者のナマの声を聞きニーズの把握に努めています。農家の高齢化をポジティブに受け止めて、歴史の継承と伝達、『美味しい野菜ができる土地』での後継者を募るべくプロモーション活動。



●子供達と共に作る自然農野菜

一緒に種を植え、水をやり、収穫して、料理、そして食べる。『生きることは食べること』を一から実践してみる。自然の恵みだけで採れた野菜を畑の真ん中で食べる！最高な体験を通して大人も子供も学ぶことたくさん。いつかはこの地を離れる子供たちが、いつでも帰ってこれる場所つくり。



●フキシネマパラダイス

気球飛ばしたり、落語やったり、キューバミュージックで輪になって踊ったり、竪穴式住居がある竪穴マルシェも大盛況。プロのチェリスト、マジシャン、DJ、ダンサー、多才なメンバーで、何かと話題のTEAMフキシネマ。『楽しいところに人は集まる』どんどん仕掛けていくので乞うご期待！



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
個人メールアドレス：nightstalkers2000@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
instagram：@FUKI_LAB

和歌山県伊都郡高野町　　森島　大介

農業・林業

～　おじいちゃん先生から受け継ぐ、富貴の大和当帰　～

基本情報



【年　齢】
44歳
【出身地】
大阪府堺市
【転出元】
大阪府堺市
【前　職】
洋菓子製造業
【活動時期】
R5.11～

協力隊に応募したきっかけ

20年ほど洋菓子の製造に関わって過ごしてきて徐々に素材にも関心を持つようになっていました。普段何気なく調理している野菜や果物はどのようにして栽培され流通しているのだろうか？以前より田舎に移住願望があり、ハーブや薬草などにも興味があったため今回高野町の「大和当帰栽培技術継承」に応募いたしました。限られた場所でしか栽培できない大和当帰の技術を継承して今までの経験を生かしてさらに発展できないだろうか、と思ったのがきっかけです。

今後の抱負･任期後の目標

初めて田舎に移住して右も左もわからない状態から約2年が経過しました。大和当帰の指導農家さんには一から指導していただいて現在は２回目の大和当帰の収穫目前になっています。年々変化していく気象条件の中で安定した収穫につなげる事ができるように教えていただいた事を反復して身につけ、次の世代にも取り組みやすいような栽培方法を確立していきたいと思います。任期後は栽培面積を可能な範囲で拡大していき、高野町富貴が活性化するような特産品を作り上げるのが目標です。

活動内容

●大和当帰栽培の技術継承

大和当帰は高野町富貴地区で江戸時代より栽培されていた歴史があり現在においても国内で重要な薬用作物です。今では当帰農家は富貴地区で一軒のみとなっており、栽培技術の継承するための活動をしております。



●夏野菜栽培とのペアリング

栽培する上で様々な作業工程がある大和当帰ですが、夏季は管理作業のみとなり他の夏野菜なども栽培できます。冷涼な気候で寒暖差がある地域ですので高品質で味の濃い野菜も有名です。また連作障害などの課題などもありますので当帰と夏野菜を組み合わせて最良な形を模索しております。



●地域活動の参加

富貴地区は年々過疎化しており歴史ある行事なども縮小傾向にあるので、これらを後世に繋いでいけるように積極的に参加しております。
富貴に移住者が増加していく中で地域活動には住民との架け橋になる側面もあるので生活する上でとても重要だと考えています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（個人メールアドレス）deemdai1128@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】　なし

和歌山県九度山町　佐野　隆馬

農業・林業

～　スムーズに地域に溶け込み就農を目指す　～

基本情報



【年　齢】
３６歳
【出身地】
静岡県静岡市
【転出元】
静岡県静岡市
【前　職】
会社員
【活動時期】
Ｒ7.4～Ｒ１０.３

協力隊に応募したきっかけ

以前から農業に興味があり、その中で果樹をやりたくて探していたら、九度山町で柿農家を目指す人を地域おこし協力隊として募集していて、農業のノウハウを学びながら仕事ができるならと思い応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

まずは地域になじむこと。農業をやるにあたって大事なことだと思うのでコミュニケーションを大切にしていきたい。
任期後は、柿農家としてどう生計を立て、いかに収入を増やすことができるか、そして食べて美味しいいと言われる柿を作れるように考えながらやっていければと思います。

活動内容

●園地での研修風景

週４日はJAに研修生として農業のノウハウを学んでいます。柿はもちろん、果樹ではスモモや柑橘類、野菜はナス、トウモロコシ、キャベツなど色々な種類を、種や苗から収穫までの一連の流れを作業しながら身につけてます。草刈りはもちろん、虫や病気予防に対する防除作業の大切さはやってみて改めて大事なことだと感じているが、同時に大変さも感じています。



●活動報告作成中

週１日は役場に勤務し、イベント運営の補助や直売所運営の補助、あとは中山間傾斜農地の現地確認に同行させていただき農地の所有者がいたらあいさつがてらコミュニケーションをとることができ、人脈づくりに努めています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
九度山町役場　産業振興課
（メールアドレス（職場）sanshin@town.kudoyama.lg.jp
（電話番号（職場））０７３６－５４－２０１９

和歌山県九度山町　清本　勝史

農業・林業

～　スムーズに地域に溶け込み就農を目指す　～

基本情報



【年　齢】
４３歳
【出身地】
大阪府岸和田市
【転出元】
大阪府八尾市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R7.4～R10.3

協力隊に応募したきっかけ

九度山で柿畑の作業を体験させてもらったことから、柿農家に興味を持ちました。また九度山には以前から少し関わりがあり、移住したいと考えておりました。協力隊の制度なら、現場で経験を積みながら就農を目指せると知り、応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

果樹を中心に農業の基礎を学びながら、少しずつ経験を積んでいます。今後は自分の畑を持ち無理のない形で農業を続けていけるよう力をつけていきたいです。任期後も九度山に腰を据えて地域の一員として暮らしていけたらと思っています。

活動内容

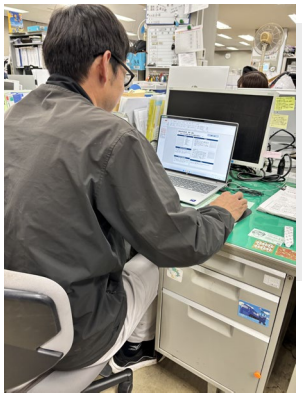
●園地での研修風景

農協の園地で、すももや柿、柑橘の防除や摘果等の管理作業から収穫、出荷時の荷造りなど作業を通して学んでいます。
果樹以外に野菜の栽培やトラクターの操作、刈払機やリモコン草刈り機など、幅広い作業を経験しています。



●活動報告作成中

役場職員と中山間地域の現地確認に同行しています。実際に現場を回る中で、耕作放棄地や高齢化など地域が抱える課題を肌で感じました。また芸術祭の準備や運営にも関わり地域の人たちと協力しながらひとつの場を作り上げる大変さや面白さを実感しています。
こうした経験を通して、任期後は自分なりの形で地域に関わり続けたいと思います。



連絡先

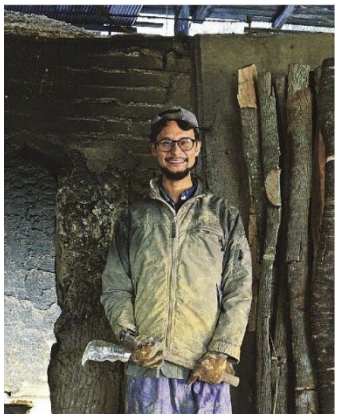
【メディア等の取材連絡先】
九度山町役場　産業振興課
（メールアドレス）sansahin@town.kudoyama.lg.jp
（電話番号）０７３６－５４－２０１９

和歌山県みなべ町　中村　道太郎

～　炭焼き職人の担い手　～

農業・林業

基本情報



【年　齢】
32歳
【出身地】
神奈川県川崎市
【転出元】
神奈川県川崎市
【前　職】
農業
【活動時期】
R7.4～R10.3（予定）

協力隊に応募したきっかけ

約4年間、複数の地域で林業、野菜つくり、田んぼ、草刈業、籾殻くん炭制作と販売、造園、梅や柑橘類の収穫作業を通じて、自身が田舎での暮らしと一次産業が好きなことを知り、以前から夢であった製炭士になり、炭で町に良い風と水を届けられるような、循環できるような自然つくりに貢献したいと感じたため。

今後の抱負・任期後の目標

自身の林業の経験から、山の中に道ができることで、安全性、作業効率の向上、女性でもできるような備長炭つくりができると考えている。近年の皆伐による、土砂崩れの可能性を下げる、壊れない道つくりに取り組んでいきたい。

活動内容

●紀州備長炭職人としての修行

みなべ町清川の炭焼き職人に弟子入りし、炭窯作業や木の準備など日々の修業を通じて職人技を習得している。



●自伐型林業・里山づくりの準備

将来的に自ら管理しながら適度な間伐を行う自伐型林業に取り組む計画で、山道整備や原木運搬の準備を行っている。



●里山保全活動の支援

炭焼きや林業の活動を通じて、持続可能な里山づくりや地域資源の保全に取り組んでいる。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（電話番号（職場）　）0739-76-2014（みなべ森林組合）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
現在のところ無し

和歌山県みなべ町　梅田　進太郎

農業・林業

～　ドローンとAIで守る、紀州備長炭の未来　～

基本情報



【年　齢】
31歳
【出身地】
北海道池田町
【転出元】
神奈川県南足柄市
【前　職】
IT関係
【活動時期】
R6.4～R9.3（予定）

協力隊に応募したきっかけ

海や山などの自然が好きで、もともと林業については採算性や相続などの課題があることを知っていた。そんな中でみなべ町に訪れる機会があり、和歌山の豊かな自然に触れ、林業や地域の振興に携わりたいと感じたため。

今後の抱負･任期後の目標

学業や前職で身につけた機械やITの知識や、趣味の狩猟で培った体力や自然を観察する能力をベースに、森林組合員として林業のノウハウを学び、地域の特性を活かした施策を考え取り組みたい。

活動内容

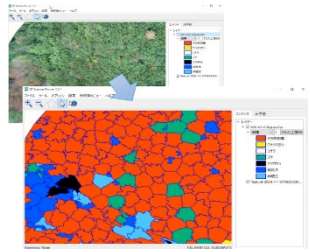
●ドローンによるウバメガシ撮影

町内の山林で、紀州備長炭の原木となるウバメガシを対象に、ドローンで航空撮影を実施。撮影は自動飛行ルートで行い、複数の写真をつなぎ合わせて大きな画像データとして保存している。



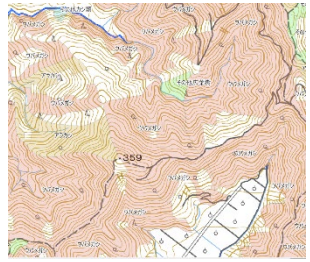
●AIによるウバメガシ識別

撮影した画像からウバメガシを特定するため、AIに学習を行い、画像上でウバメガシを識別・マーキングする作業を実施。識別精度を確認するため、現地確認も並行して行っている。



●データ化による資源管理支援

AIで識別したウバメガシの位置や本数をGIS上で管理・保存。町内全域のウバメガシ分布の把握に役立て、原木保全や備長炭産業維持に資するデータの作成を行っている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（電話番号（職場）　）0739-76-2014（みなべ森林組合）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
現在のところ無し

鳥取県琴浦町　行安　稔

農業・林業

～　満点の星空の下、風の通る丘にできるワイナリーでワイン造り　～

基本情報



【年　齢】
47歳
【出身地】
岡山県倉敷市
【転出元】
鳥取県琴浦町
【前　職】
ワイナリー勤務
ワイン醸造
【活動時期】
R7.6～R8.5

協力隊に応募したきっかけ

この度、鳥取県琴浦町に新しいワイナリーができると聞き、ワイン醸造に20年従事した経験を生かせればと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

琴浦町らしい、気候・風土を活かしたワイン造りを目標としていきたい。
そのために、琴浦町の気候・風土にあった良質のブドウの作り方を普及所やJA・地域のブドウ生産組織等の関係者（団体）と研究していきます。

活動内容

●ワイン醸造用ブドウ造り

品種や圃場により条件が異なるので、普及所・JAの専門家の指導や他の作業員さんと協力しながら、ブドウの剪定や誘引を行って良質のブドウ造りをしています。
ブドウの生産から醸造までの知識を得られるように頑張っています。



●ワイン醸造（試験醸造）

今年収穫した醸造用ブドウの試験醸造を行いました。
近隣のワイナリーの醸造施設で行いました。
醸造を行う際には、立会して品種毎に経験・知識を積むことができました。



●良質のワインを生産するための経験･知識の獲得

山陰地方で組織されているワイン醸造やブドウの生産者の勉強会に参加して、情報交換や交流を深めて横のつながりをつくれました。
今後も交流を深めて良質のワインを生産に向けて頑張っていきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））yukiyasu_minoru@fujio-food.com
（電話番号（個人or職場））0858-52-3545

岡山県岡山市　茂木　瑞穂

農業・林業

～果物王国岡山で“ブドウ栽培”と市民農園（牧山クラインガルテン）を活用した地域活性化に取り組む～

基本情報



【年　齢】
58歳
【出身地】
東京都大田区
【転出元】
東京都武蔵野市
【前　職】
給食業務
【活動時期】
R5.4～（３年目）

協力隊に応募したきっかけ

農業経験はおろか、土いじりすらほぼしたことがありませんでしたが、自分で作物を作れるようになりたいという思いがいつも頭の片隅にありました。
当時中学３年生だった息子が「農業高校で果樹を勉強したい」と話しており、果樹栽培にも興味が出てきていたタイミングで、葡萄の産地である牧山地域の協力隊募集を見つけ、この機を逃すものかと応募に至りました。

今後の抱負・任期後の目標

牧山の「郷」ブランドのブドウ作りを継承するため、日々奮闘しております。
今後は、生食ブドウを引き継ぎながら、耕作放棄地を利用した無肥料・無農薬で行うブドウ作りや、米、麦、野菜作りなどにも挑戦していきたいと考えています。
地域の方々とのつながりを大切にし、牧山地域の振興に貢献できればと考えています。

活動内容

●ブドウの栽培支援

地元の方のブドウ畑をお借りし、芽欠き、誘引、摘芯、整房、摘粒、袋掛け、出荷までの作業支援を行いながら、栽培技術の習得に励んでいます。



●牧山クラインガルテン（市民農園）の活用支援

市民農園である牧山クラインガルテンをPRするためのイベント企画や、情報発信を行っています。
また、体験農園エリアの整備・利用者の支援を行いながら、農作物の栽培方法などを勉強しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】牧山クラインガルテン
（メールアドレス）　bokken219@hi3.enjoy.ne.jp
（電話番号）086-228-2280

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（インスタグラム）@BUDOU_GIRL

@BUDOU_GIRL

岡山県井原市　三嶋　太地

農業・林業

～　みんなでシェアする会員制農園　～

基本情報



【年　齢】
35歳
【出身地】
栃木県
【転出元】
愛知県
【前　職】
アフィリエイター
【活動時期】
R5.10～

協力隊に応募したきっかけ

農業をしたいと思っていた＆SNSを本格的に始めたいと思っていた時期にたまたま会員制農園づくりのSNS担当という募集内容を見てこれだと思い応募した。
実際に採用されてみて、まさに農業も少しやりつつSNS運用をがっつりできる理想的な仕事だった。

今後の抱負・任期後の目標

SNS運用を一定のレベルで成功させ、会員制農園に会員が継続的に入ってくる仕組みを作る。

活動内容

●SNS運用

インスタグラムを中心に、SNSで会員制農園の会員を集めるための集客活動を行っている。



●農業イベントの開催

ただSNSを運用しているだけでは、なかなか人は集まらないので、定期的に農業体験や収穫体験などのイベントを開催している。



●SNS広告の活用

会員になりそうな属性の方をピンポイントで効率よく集めるため、掲載される地域や趣味嗜好を絞ることができるSNS広告を活用している。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））agresort.bisei@gmail.com
（電話番号（個人））080-4867-5408

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（インスタグラム）https://www.instagram.com/agresort_bisei/

岡山県井原市　小村　泰秀

農業・林業

～　みんなでシェアする会員制農園　～

基本情報



【年　齢】
50歳
【出身地】
熊本県熊本市
【転出元】
福岡県北九州市
【前　職】
農家
【活動時期】
R5.11～

協力隊に応募したきっかけ

井原市の募集要項に対し、自身の経歴やスキルが役に立つと思ったことと、自身のスキルアップやキャリアアップにも繋がると思ったから。

今後の抱負･任期後の目標

活動地域である美星地区にて、CSA（地域支援型農業）を応用した会員制農園の仕組みを確立し、地域活性化及び、耕作放棄地や就農者減少などの課題解決に貢献したい。

活動内容

●地元農家への事業説明会実施

事業説明会を実施して、
会員制農園づくりのための参加農家を募集



●農業体験（畑、田、座学）

各種農業体験を利用農地などで実施
（苗の定植体験、種まき体験、竹炭づくり体験、夏野菜の収穫体験、枝豆の収穫体験、田植え体験、稲刈り体験、脱穀～籾摺り体験、大学教授を講師に迎えての座学講座など）



●出店PR活動

倉敷のイオンの七夕マルシェに出店し、地元野菜の販売や活動PRを実施



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））com.liberarch@gmail.com
（電話番号（個人））090-8621-4197

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
活動InstagramのＱＲコードを添付　⇒

岡山県赤磐市　福田　美香

農業・林業

～　赤磐市是里での農業・地域支援　～

基本情報



【年　齢】
42歳
【出身地】
青森県弘前市
【転出元】
東京都目黒区
【前　職】
建設業
【活動時期】
R7.8～R10.7

協力隊に応募したきっかけ

40歳を節目に新規就農を目的として夫の出身地である岡山県への移住を計画していました。作物はぶどうを考えていたところ、赤磐市の地域おこし協力隊の募集を知り、新規就農を考えていた私にとって良い機会になると考え、応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

色々な行事や日々の活動を通して是里の皆さんとふれあい、対話を重ねながら、地域に特化したニーズを探り、新たな活動に繋げ、地域に貢献していきたいと思っています。
是里地区のぶどうづくりは、少子高齢化と過疎化が進むなか、後継者の育成が課題です。同じように新規就農を目指す人たちに是里地区の魅力を知ってもらい、一人でも多くの人材を呼び込み、みんなで一緒にこの地を盛り上げていきたいです。

活動内容

●ぶどうの栽培･経営に関する技術などの習得

ぶどうの収穫時期には、地域の生産者の人から学びながら、圃場での農作業や選果場での出荷作業を行いました。収穫時期が一段落したら、来シーズンに向けての圃場管理などを行います。収穫後にも人の手が細やかに加わっていることや来シーズンに立派なぶどうが収穫できるように様々な準備が必要であることを実感しながら経験を積んでいます。



●地域行事や地域農業者の支援活動

九月に開催された「是里むら収穫祭」の支援を行いました。例年五、六百人が来場するとても賑やかなお祭りです。目玉は是里ぶどうの販売で、今年は午前中で売り切れてしまうほど大盛況でした。
来場者に来てよかったと思ってもらえる収穫祭を目指して、来年の開催をよりよくできるよう地域の方と話し合っていきたいです。





連絡先

【メディア等の取材連絡先】
赤磐市　産業振興部　農林課
（メールアドレス）sangyo@city.akaiwa.lg.jp
（電話番号）086-955-6174

岡山県真庭市　小林　建太

農業・林業

～　森林管理を担う「山守」になりたい　～

基本情報



【年　齢】
36歳
【出身地】
大阪府大阪市
【転出元】
大阪府大阪市
【前　職】
会社員
【活動時期】
R7.10.1～R10.9.30

協力隊に応募したきっかけ

コロナ禍をきっかけに都会でのサラリーマン生活を続けることに不安を抱き、田舎の里山資源を活用して、「自分の手で生きる」ことを目指すようになりました。その手段として「林業」を主軸とした百姓的な生き方（半林半X）を実践したいと考えています。また、既存の林業とは違った“多面的な稼ぎ方”を目指し、林業分野に留まらず、幅広いネットワークを構築するハブ役となり、真庭市の林業も盛り上げたいという想いで、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

かつての里山は、地域の共有資源として共同管理されてきましたが、今では多くが手入れされず、荒れています。
　私は、自ら資源調査を行い、森林経営計画を立て、森林施業を実践する“山守”を目指しています。
　また、整備した里山を舞台に、環境教育や企業研修、自然体験を通じて森と人をつなぐ活動を広げたいと思います。
　地元の山主さんに信頼され、地域に必要とされる山守を目指して頑張ります。

活動内容

●森林サービス産業への挑戦

◆森林資源の収益化：木を伐るだけではなく、+αの価値づけ（里山セラピー、グリーンウドワーク、エコツーリズム、自然体験イベントなど）

◆林業× 観光× 教育のクロス分野の可能性に挑戦



●井尾川流域森づくり構想

◆森林の団地化・集約化を進めることで、持続可能な「森林経営計画」を策定し、森林施業を実践する。

◆井尾川流域の森林を、自然と人の生業（林業）が調和する形で管理し、将来的には「自然共生サイト」への登録を目指す。



●令和7年度良好な環境を活用した観光モデル事業

◆環境省のモデル事業。一般社団法人北房観光協会が実施する事業に、森林インストラクターとして関わる。真庭市を中心とする３エリアが連携し、オンラインとオフラインが一気通関した自然保全学習・体験コミュニティを形成し、地域への継続的な接点と再来訪を促す仕組み作りを目指す。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（職場））koryu@city.maniwa.lg.jp
（電話番号（職場））0867-42-1179

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（こばけんの田舎開拓史）https://kobaken-countrylife.com/

愛媛県松山市　西本　悟朗

農業・林業

～「農園維持サイクル」により耕作放棄地対策～

基本情報



【年　齢】
５６歳
【出身地】
千葉県浦安市
【転出元】
バングラデシュダッカ市
【前　職】
国際協力機構派遣専門家
【活動時期】
R７.４～R１０.３

協力隊に応募したきっかけ

今までは、海外を転々として生活をしてきたが、定住することを考え情報収集する中で、忽那諸島を知った。実際に中島を訪れ、将来家族と中島で暮らし、自分の子どもにも中島を故郷として、芯のある複合文化を育んでもらいたいと考えるようになった。そこで自分たちが暮らしていくためにも、中島が抱えている「耕作放棄地」の対策として、アグロ・ツーリズムを起点とした、「農園維持サイクル」の立ち上げに、中島の方と取り組んでいきたい。

今後の抱負･任期後の目標

活動のミッションは「耕作放棄地対策」だが、当面は中島の風土と農事暦を踏まえた地域の農業全般を学ぶことに注力し、みかん生産者や新規就農者の支援をするとともに、南国果樹、陸稲、そばなどを試験栽培している。柑橘の収穫、出荷の農繁期には、援農に力を入れ、自らも柑橘栽培のサイクルを学びながら、生産者の方々の知己を得、地域計画に沿った耕作放棄地の再生に取り組んでいきたい。

活動内容

●地域団体と連携した活動

まつやま里島ツーリズム連絡協議会会員の地域団体が主催するお茶摘み体験会に参加し、お茶園の管理の支援を実施している。また、島外のフリースクールの体験学習などにも参加している。



●イノシシ対策とジビエ化

イノシシ対策協議会に参加し、罠免許も取得。また、地元団体と連携してジビエ化を目指し、解体、精肉処理の練習にも取り組んでいる。



●耕作放棄地再生

農家の方の依頼に応じて耕作放棄地再生（草刈、植樹、石積）の支援や、放棄地を貸与し、園地として再生後、管理に取り組んでいる。再生した放棄地では、柑橘だけでなく収入確保を念頭に陸稲や、そば、トロピカル・フルーツ、ハーブなどの試験栽培にも取り組んでいる。



連絡先

【【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）gorou.nishimoto@city.matsuyama.ehime.jp
（電話番号）089-948-6816
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（里島めぐりFacebook）https://www.facebook.com/people/ritoumeguri/
（里島めぐりInstagram）
https://www.instagram.com/ritoumeguri?igsh=ZGNnMWdla3dOMjVz

福岡県北九州市　安村　嘉能

農業・林業

～　合馬地区の魅力発信と、採れた新鮮な特産物を届けます！　～

基本情報



【年　齢】
５２歳
【出身地】
福岡県福岡市博多区
【転出元】
福岡県福岡市中央区
【前　職】
・大手印刷会社
・アパレル業
【活動時期】
R６.１０～R９.９

協力隊に応募したきっかけ

令和6年1月に北九州市小倉南区で開催された、「二地域居住体験ツアー」に参加しました。そこで北九州市、特に小倉南区に強い興味を持ちました。ツアー期間中に合馬の「豆腐汁」をいただき、魅力ある郷土料理を後世に残す仕組みづくりをしたい、と強く考えていました。個人的にも内装やコミュニティスペースの企画デザインをしており、スキルを役立てたいと考えていました。
6月に公募があり、ここぞとばかりに応募しました。

今後の抱負･任期後の目標

合馬の課題は、三谷の課題であり、小倉南区の課題です。設立した「三谷地域振興協議会」の活動を軸に、合馬たけのこのＰＲやお米のブランド化を推進します。合馬の魅力をピックアップし、観光や農泊と連携して活動をしていきます。小倉南区役所と連携して合馬の郷土料理「とうふ汁」のPRにより、賑わい親しみある店舗運営を目指します。まずは既存の施設を利用しての期間限定ショップ、将来的に恒久的な店舗運営を目ざします。

活動内容

●合馬農産物直売所の再活性化

26年前の平成11年に設立された合馬農産物直売所は、たけのこやお米を中心に出荷されてきた生産者組合が運営する直売所です。しかし生産者の高齢化やスムーズな事業承継がうまくいかなかったこともあり、厳しい運営を強いられています。合馬地区の魅力をPRし、高齢な生産者の足並みを揃えながら、合馬の色の魅力を発信していきます。





●合馬神楽や豆腐汁のPR活動

合馬は三谷の一部である西谷地区にあります。全国的にたけのこで有名ですが、合馬神楽や豆腐汁といったローカルコンテンツも充実しています。これらを映像化・言語化して都市部にPRしています。合馬神楽保存会にも参加し、若手グループへの継承をサポートしていきます。豆腐汁も婦人グループと連携してイベント参加を促進しています。





●三谷地域振興協議会の運営

合馬は、西谷・中谷・東谷の３つの谷にあります。合馬の魅力は三谷の魅力の一部です。令和7年に地域の皆さんと共に三谷「地域振興協議会」を立ち上げました。官民連携して中山間地区の農業の可能性として農泊、たけのこの観光農園化、収穫体験などのイベント化を企画しています。また、地域の観光資源を発掘するフィールドワークを実施しています。





連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場））praudacorp@gmail.com
（電話番号・個人）090-7539-0108
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（instagram）yasumura.oumaで検索するか右QRコードよりDL

@YASUMURA.OUMA